

希土類会議の狙いを聞く

マテリアル・トレイディング・カンパニー 小滝 秀明社長



希土類 (レアアース)・レアメタル商社マテリアル・トレイディング・カンパニー(本社=東京都港区、小滝秀明社長)が14日に都内で開催した「希土類会議シリーズ」中重希土のゆくえ。業界関係者など約150人が参加したこの会議の目的や次回この企画、また足元で低迷する希土類市況の今後の見通しなどを小滝社長にインタビューした。

感を持っており、希土類の脱中国や省資源化、あるいは使わない方向に動くなど、中国に敵対するような極端な方向に振れている。だが極端な動きはさまざまにあつれきを生む。敵対するのではなく希土業界に生きる者同士が協力していくことの必要性を、この会議で訴えていきたい。

「資源開発などの面でこれまで中国側に負担をかけてきた反省もある。日本が中国以外の供給ソースを開拓しておけば、中国の負担

中国以外の供給源開拓

「資源開発などの面でこれまで中国側に負担をかけてきた反省もある。日本が中国以外の供給ソースを開拓しておけば、中国の負担

野なことも取り上げたい」
——希土類価格は足元下落基調にあるが今後の見通しは、
「生産量が多い上に流通在庫も多い。中国国内で

が良いかもれない」
——軽希土の価格はどうか。
「生産量が多い上に流通在庫も多い。中国国内で

れ込んだ投機資金もピークを越え、投げ売りが続いている。供給面にも安心感がある。ただ5ナインなどの高純度品は供給ソースが限定されており、今後一本調子で下がるかどうかは疑問だ」
——日本の希土類政策をどうみる。
「予算規模の大きな支援策などを出され、市場に明確なメッセージを発信するなど、やるべき事はやっていただけている。あとは企業努力で対応するしかない。しかし残念ながら原料の供給不安などから海外に工場を出す決断をされる企業が出てきている。その規模を少しでも小さくしたり進出のスピードを遅くするためにも、今回の会議などを通じて供給への不安感を緩和させるような提案をしていきたい」
(増田 正則)

を軽くすることができたろう。中国以外でわれわれの仲間を迎えるべきパートナーを紹介することも会議の目的の一つだ」
——それが会議で講演した豪ノーザン・ミネラルズか。
「アース・ミネラルズは中重希土に富む鉱床を開発しようとしているため、日本が温かく迎えて一緒に育てていければいい。2015年から生産開始予定の希土類精鉱は純度が30%程度のため、われわれ自身が

開催時期とテーマについて。どこかのタイミングで急速に戻る可能性がある。今は心理戦だ。中国は環境監査を受けているEIL申請企業を合否判定を遅らせて需要家の不安を高めている。需要家の在庫は潤沢だが、どこまで我慢できるかだろう。今も中重希土のEIL申請はキロ50-60が付いており、シワジワと上がってきている。思っている以上に水面下で事態は深刻な方向に動いている。日本はある程度早めに在庫を確保しておくことも考えた方

純度を高める各需要家のニーズに適した品質に仕上げて供給するという提案をしている」
——希土類会議の次回

「中重希土は7月までの在庫も多